「見 直 そ う ！　家 庭 の 力」

～親子で決めて、親子で実践～

輪之内町立輪之内中学校ＰＴＡ
会長　山北　政美

１　はじめに

（１）地域の概要

私たちの住んでいる輪之内町は大昔、伊勢湾とつながる海であったと言われている。その後、伊勢湾が陸地になったり、海に沈んだりしながら、長良川をはじめ、多くの川が上流から土砂を運び、現在の濃尾平野を作ってきた。

岐阜県の西南部に位置し、東は長良川を隔てて羽島市に接し、西は揖斐川を隔てて養老町・大垣市に相対し、南は海津市、北は安八町に接している。面積22.36㎢を有し、南北７km・東西６kmに広がる輪中地帯である。近隣各市町村からの転入者も増えつつあり、人口は２７年４月現在で約１万人である。

（２）学校の概要

輪之内中学校は町内３つの小学校から集まる、１町１校の中規模の中学校である。全校生徒293名を PTA 会員数264名と教職員30名で生徒達の健やかな成長を見守っている。清流に育まれた豊かな環境の中で、子ども達は『ひとりだちのできる生徒』を学校の教育目標にして、『じまんづくり』を合言葉に生徒会活動を中心とした伝統の三本柱【合唱・掃除・福祉】に力を注いでいる。

（３）PTAの概要

本校ＰＴＡ役員会は、会長、副会長、書記、会計、母親代表の本部役員と、専門委員長・学年委員長を含む実行委員会で構成される。

また、地区委員、学級委員約62名がそれぞれ３つの専門委員会（安全・校外委員会，成人・母親委員会，会報委員会）と学年委員会に分かれ活動を行っている。

２　研究のテーマおよび研究内容

今一度子ども達の様子を見つめ直してみると、中学校では小学校の時より一緒に取り組むことが少なくなり、子ども達の成長を近くで見守る機会が減ってきたように思われる。また、今まで以上に自立できる姿をめざすために敢えて口出しをしないことも増えてきた。

そうした中で、親子で相談したり、親子で約束を決めて実践したりして、「家庭の教育力」の向上をめざしていくことはとても大切なことであると考える。いろいろなことを子ども任せにせず、親子で相談して決め、励まし合いながら一緒に実践して取り組むことで、共に成長をしていくことをめざして、次に示すようなテーマを設定した。

研究テーマ
見直そう！　家庭の力
～親子で決めて、親子で実践～

そして、PTA 活動のスローガンを『楽しむ』とし、PTA 会長を中心に専門委員会のみんなで考え実践し、その歩みを会員に広めていくことが大切だと考えた。

３　研究内容

（１）３専門委員会を生かした取組

（２）家庭と地域、学校の連携した取組

４　実践

（１）３専門委員会を生かした取組

ア）　親子で取り組む“食育”

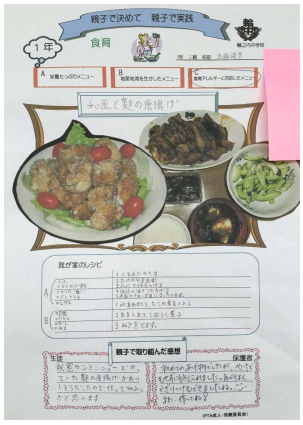
成人・母親委員会では《目覚まし！活力！朝食メニュー》という内容で、親子クッキングを行った。

栄養士の先生からは、「中学生だからこそ大切な食事について、ご家庭でも挑戦してみて下さい」とお話をいただいた。

そこで、次の３つの観点から夏休みを利用して親子で取り組む「我が家のレシピ」を募集することにした。

「栄養たっぷりメニュー」
「地産地消を生かしたメニュー」
「食物アレルギーに対応したメニュー」

その結果，多くのオリジナルレシピが集まった。完成品の写真からは，どのレシピも親子で材料から相談し，一緒に楽しく作って食べた様子が伝わってきた。この取り組みから、親子で話す機会が増えたことや、全校で一つのテーマについて取り組むことの楽しさを味わうことができた。



また，PTA 研修旅行では，食育について学習する目的で，キューピーの挙母工場の見学を行い，保護者も楽しく学ぶことができた。

イ）　親子で考える“情報モラル”

安全・校外委員会では、子ども達の安全を守る活動として、“情報モラル”について親子で考え取り組んだ。

最近ではＳＮＳやインターネットなどの正しくない使い方で、友達を傷つけたり、反対に事件に巻き込まれたりする事案が各地で報告されている。

現実には、こうした情報に関する知識は、保護者より子どもの方が勝り、保護者が子どもを指導できないのが現状である。我が子が事件に巻き込まれないうちに、私たち保護者も現状を十分理解して、勉強をしていく必要があると考えた。

そこで，まず夏休み中の宿題として「スマホ」「インターネット」「ゲーム」に関する新聞ノートを募集した。新聞の切り抜きだけでなく，取り上げた記事について親子で話し合い，自分の家で気を付けたいことを考えた。

次に示すのは，その一例である。安全・校外委員会のメンバーで模造紙に貼り付け，いつでも見ることができるように，PC室の廊下にも掲示した。

その結果，同じ記事を取り上げていても，「生徒にまかせています」「親が何も対策

をとっていないからいけないんだ」などそれぞれ多様な意見が多数集まった。

そこで，まず各家庭の情報モラルに関する意識をアンケート調査することにした。その結果、ネット・携帯を利用するうえでルールについて決めている家庭は全体の６０％、さらに、どんなルールを決めているかというと、

場所と時間帯	４０％
マナー	２５％
パスワード	１８％

となっている。

さらに、携帯電話やスマホの所持率は全体の３分の１であるものの、そのうち約６０％しかフィルタリングが設定されていないこともわかった。

学校でも，長期休暇前等に生徒指導主事から具体的に話をしていたが，家庭でもこのことについて、親子で真剣に話し合う機会をもつ必要があることを感じた。そこで情報モラルのアンケート結果を配布して、現状について知っていただくようにした。

（２）家庭と地域､学校の連携した取組

ア）　よさを広める連携プレー

学んだことを生かしてこそ実践であると考え、どの委員会も「一歩前へ」の意識を持ってさらなる活動が始まった。

成人・母親委員会では，先述したレシピをみんなで協力して模造紙に貼り付け，音楽祭でたくさんの保護者や地域の皆さんが集まるときに掲示した。中には，「おいしそうだね。」「よく考えたね。」「うちでも一度作ってみようかな。」など，見ていただいた方からも多く反響が寄せられた。

そこで，町の学校栄養士にお願いして，たくさんのオリジナルレシピの中から，学校給食のメニューとして採用し作っていただくことにした。また、献立表や給食便りにも掲載していただき、中学校だけでなく各小学校においても，「今日の給食は，輪之内中学校の〇〇さん親子が考えた新メニューです。」と紹介していただくことができた。

イ）　学びを生かして相談・実行！

安全・校外委員会では，生徒及び保護者を対象に，(株)ＧＲＥＥより講師を招いて，専門的な立場から詳細にお話を聞く機会を設けることとした。

← LINE

GREE →

新年度には，(株)ＬＩＮＥからも講師を招いて，特に保護者が質問できる機会を作った。このような機会を通して、しだいに情報モラルについて知るだけでなく，我が

子を見えない危険から守る行動に対する取り組みへと意識が高まることとなった。

その結果、「ルールを保護者が決めるのではなく，生徒自身に自己決定してほしい」という保護者の願いを受けて、生徒会が中心になって自分たちで何か前進できる方法を考えることにした。今後各学級で内容を何度も検討し，みんなで決めたことを宣言文にしていこうと考えている。そして、できた宣言文は，親さんたちにも紹介し，応援メッセージをいただくつもりでいる。

このような取り組みの様子は，会報委員会が年４回発行する会報誌「開拓」で何度もとりあげてきた。PTA 役員・先生の紹介に始まり学校行事や普段の子ども達の様子をわかりやすく構成し、楽しんで読んでいただける会報誌にすることで、会員に興味を持ってもらい、更なる協力へと繋がってきている。

５　成果と課題

＜成果＞

この２年間の研究を通じて大切にしてきたことは、活動自体が生徒や PTA 会員の負担・苦痛とならないよう配慮し、活動を「楽しむ」ことによって笑顔が生まれるように実践を重ねてきたことである。

今年度からは、より多くの PTA 会員に活動に参加してほしいとの想いから、PTA 本部役員の考えや取り組みを解り易く紹介するため、「輪之内中学校 PTA たより！」を発行した。そして、遠くの存在であった本部役員を少しでも身近な存在に感じてもらえるように努めた。このことで各会員が本部役員の考えや取り組みを知り、仲間意識を持って事業に参加してもらえるようになり、結果としてより多くの会員の参加に繋げることができた。

また、仕事と家庭の両立で、親子で共に取り組む時間が殆ど無い中、比較的ゆとりのある夏休みに親子で実践する活動（親子レシピや新聞ノート、校庭の草刈や側溝の泥上げ）を実施した。親子で相談して決め、励まし合いながら一緒に実践して取り組む機会を提供することで、親子が共に成長するきっかけ作りとなり、それを足掛かりに「家庭の教育力」の向上に繋げ、改めて家庭の力を見直すことができた。

本町は人口も少なく、ご近所の顔がわかる昔の良さが残っている土地柄である。したがって、地域の方からの協力も得やすく、こうした活動を円滑に進める上で大きなサポートとなった。

今後も地域の人との繋がりを途切れることなく次の世代に継承し、いつまでも昔の良さを残していける信頼関係を継続しながら、更なる「家庭の教育力」の向上に繋げていきたい。

＜課題＞

この２年で活動が終わってしまうことなく、今後親子で苦手なことに挑戦できるような、また、広く浅くで良いので長い期間に渡って取り組めるようなバリエーション豊かな活動を企画していければと考える。

最後に私達は PTA 活動を通じてたくさんの子ども達、保護者や先生、地域の方々の笑顔に出会えたこと、また、スローガンである「楽しむ」を全力で実践する仲間が増えたことは何にも代えがたいことである。今後も協力して頑張っていきたい。「子育てが出来る期間は、あと僅かです」。